

校訓	真善美	令和7年度 学校だより	発行日	令和7年6月18日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を 創造する生徒の育成 —認め合う心、確かな学力、健やかな心身を育てる—	「荒中だより」 6月 水無月 第6号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

学びの充実を目指して

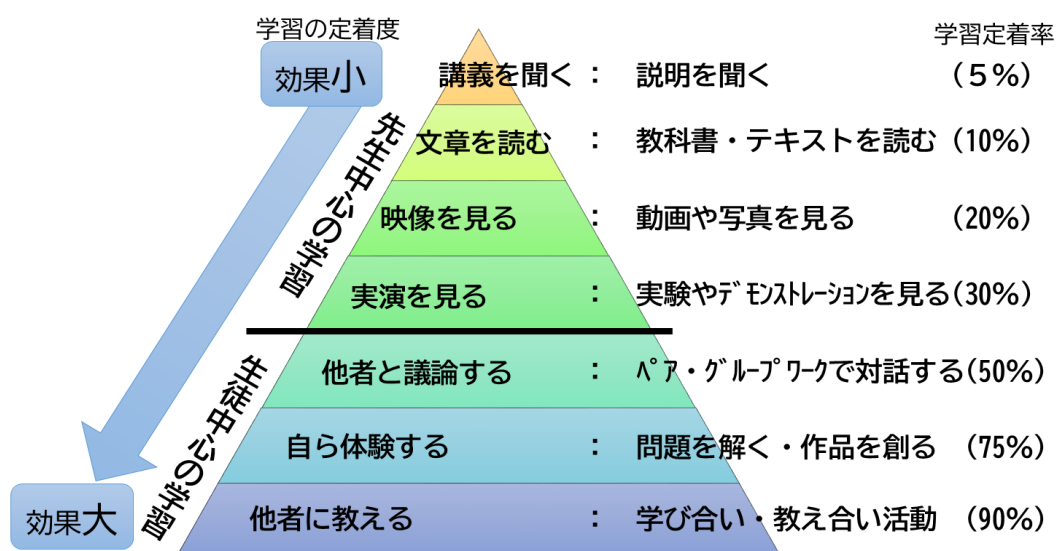
6月20日（金）に今年度第1回目の「ROSEタイム」を実施します。先日、「ROSEタイム」での教え合い活動の中心となるチューター みなさんに任命証をお渡ししました。現在、チューター みなさんは、当日に向け、準備をしているところかと思います。期末テストや部活の試合なども重なっていて、たいへんかと思いますが、全校生にとって、よりよい時間となるよう、よろしくお願いします。

さて、荒牧中学校の「ROSEタイム」や「コミュニケーショントレーニング」、荒中の先生方が取り入れている「対話的な学習」が、一体どのような考えのもとで、実施されているかについて、お話ししておきたいと思います。

何事も、「なぜやっているのか」「どんな目的や効果があるのか」を理解して取り組むのと、「やれと言われたから」「やらないといけないから」とだけ考えて取り組むのとでは、みなさんの意欲や主体性は大きく違ってきますよね。ぜひ、「なぜ」や「なんのために」ということを意識して、取り組んでほしいと思います。

ラーニングピラミッド

ラーニングピラミッドとは、アメリカ国立訓練研究所が提唱した学習モデルで、学習方法とその定着率をピラミッド型で示したものです。（下図参照）



学習の定着率は、それぞれ「講義を聞く」が5%、「文章を読む」が10%、「映像を見る」が20%、「実演を見る」が30%となるそうです。ここまでは、先生中心の学習で、説明を聞く、テキストを読む、動画や写真を見る、実験やデモンストレーションを見るといった、いわゆる知識や技能を生徒たちが受動的に「インプット」する学習となります。意外と低い定着率ですよ。

これに対し、「他者と議論する」は50%、「自ら体験する」は75%、「他の人に教える」は90%となるそうです。これらは、**学習者が中心となって主体的に学び、能動的に「アウトプット」する学習**です。これらの学習方法が学ぶ内容の定着率を高めていき、本当の意味での理解につながるという考え方になります。数値の根拠は乏しい部分もあり、いろいろな意見もあるところではありますが、荒牧中学校が目指している主体的・対話的で深い学びの実現に向けたさまざまな取組は、これらの「アウトプット」する活動の学習効果が高いという考えにもとづいています。



「ROSEタイム」は、チューターが「他者に教える」ことで、現在、理解している内容の定着率をさらに上げ、STのみなさんも、「自ら体験する（問題を解く）」「グループで対話する」といった学習を通して、**学習内容をより定着させること**を目指しています。また、「ROSEタイム」の取組を通して、問題が解けた喜びやわかってもらえた達成感などを仲間と共有することができ、一人ひとりの**自己有用感を高めていく**ことにも効果が出ている取組となります。

また、「コミュニケーショントレーニング」も同様の効果を目指していて、今後、ペアやグループで対話したり、自分の言葉や文章で表現したりするなど、「アウトプット」を重視した活動も行っていきます。トレーニングで身につけた力が毎日の授業で活用できるようなることを期待しています。

繰り返しになりますが、「何のためにやっているのか」「この活動がどんなことにつながるのか」を知ることは、主体的に学習に取り組む上で、たいへん重要なことだと思います。みなさんには、ぜひROSEタイムの意義を感じながら、この時間が皆さんにとって意味のある充実した時間となってくれればと思っています。

教育実習生 頑張っています！

6月2日から20日までの3週間、西萬 潤先生(保健体育)、矢野 愛実先生(理科)、鳥羽 千晴先生(保健体育)、西垣 美衣南先生(英語)の4名の先輩方が教育実習生として、一生懸命に学んでいます。残りわずかですが、荒中での体験が先生方の糧となるよう関わりを深めてほしいと思います。

